

安井小太郎 （字あり） 漢學者。安政五年六月十九日江戸麴町生れ、昭和十二年四月一日歿（六五—一九三六）。諱康、字朝康。號朴堂。父は中村貞太郎、母は安井意軒の長女須磨子。明治十一年京都の草場塾塾頭。十五年東京大學古典科入學、國學を修めり。二十五年學務院教授、二十五年北京大學堂教授、四十年第一高等學校教授、大正十一年東京高等師範學校教師、十四年大東文化學院學生監（うち教頭兼務）。妻琴は筆鈔爲田重禮の長女。

著書 『正本論語札記』（大正十一年十月）『八日斯文會』、『足利學校釋奠講演筆記・第十四卷』（足利衍述会著、大正十四年十一月五日栃木・足利學校遺蹟圖書館編刊）、『經學內徑』（昭和六年二月十三日大東文化學院研究部）、『景鈔正宗寺本春秋正義解説並缺佚考』（昭和八年六月十日東方文化學院）、『那波魯堂著「學問源流」』（安井朴堂名、批訂、昭和十年十一月十日大東文化學院編輯部大東文化』第十一號附録）、『曳尾集』（昭和十二年五月—二十七年自刊）、『日本儒學史』（昭和十四年四月十日喜山房）等。

